



■ 聖路加看護学会ニュースレター

第20号 平成18年11月20日 2006.11.20 No.20

[過去のニュースレター](#)

■ 目次

- 第11回聖路加看護学会学術大会を終えて
- 第11回聖路加看護学会学術大会を振り返って
- プログラム
- 座長・司会者のメモから
- 参加者からのメッセージ
- 第11回聖路加看護学会学術大会の焦点
- 第12回聖路加看護学会学術大会のお知らせ
- お知らせ

■ 内容

● 第11回聖路加看護学会学術大会を終えて

大会長 木下幸代

さる9月23日、第11回聖路加看護学会学術大会が聖路加看護大学において開催されました。近年、先進国においては糖尿病などの生活習慣病が増加の一途にあり、疾病予防あるいは進展阻止のためのさまざまな取り組みが行われています。予防活動の重要性はいうまでもないことですが、年を取り、病を得て、やがて死を迎えるということは、人間にとって不可避であるということも事実です。そこで、第11回学術大会は、メインテーマを「病気や障害のある生活と看護」として、慢性病や病気に伴う障害とともに生きている人々に焦点を当てた企画といたしました。

会長講演では、何を取り上げようかと悩んだ末に、大学院での研究成果を再度見直し、看護者というだけでなく家族や自分自身の問題として「病気とともにある生活」、「病気と向き合うということ」に軸足を移して探っていきたいと考えました。このことは当然ながら、一人一人の生き方にまで及ぶことであり、考えが熟さないまま壇上にあがることとなりましたが、ずっと問い続ける課題になるかと思っています。

午後のシンポジウムは、旧知の黒江ゆり子先生に司会をお願いし、慢性病をもつ人々に直接かかわっていらっしゃる看護専門職者4名をシンポジストに迎えて、病気や障害のある生活においてどのような支援が求められているかについて、盛り沢山の提言をしていただいたように思います。

第11回は聖隷クリストファー大学の聖路加同窓生を中心に事務局をお引き受けすることとなり、浜松の地で企画・運営ができるだろうかという一抹の不安はありましたが、その不安をかき消すように、企画委員の皆様には本当に快くテキパキとそれぞれの役割をとっていただき感謝の気持ちで一杯です。また、実行委員やボランティアとして多大なご支援・ご協力をいただいた聖路加看護大学の先生方・大学院生の方々、そして、秋分の日にもかかわらず学術大会に参加してくださった皆様に心から感謝申し上げます。

第12回は、2007年9月22日(土)、太田喜久子大会長のもとで企画されます。来年も多くの皆様が学会に集い活発な議論が展開されますよう期待しています。

[▲ ページトップへ](#)

● 第11回聖路加看護学会学術大会を振り返って

富安眞理(聖隷クリストファー大学)

2006年9月23日(土)聖路加看護大学において「病気や障害のある生活と看護」をメインテーマに第11回聖路加看護学会が

開催されました。当日は天候にも恵まれ、参加者数は151名(学会員123名、非学会員28名)と多くの方にご参加いただきました。

木下幸代大会長の会長講演「慢性病とともに生きる人々を支える看護」では、外来での経験や研究の成果から、慢性病をもちながら生活することについて、また、看護専門職としてそのような人々と向き合い支えるという支援のあり方について、参加者の皆さんとともに考えることができたのではないかと思います。

シンポジウムは、「病気や障害のある生活 ー看護専門職は何を求められているか ー」をテーマに、済生会横浜市東部病院・小児CNSの渡辺慶子さん、聖路加国際病院糖尿病専門外来・認定療養指導士の渡辺京子さん、浜松医科大学医学部附属病院・慢性看護CNSの鈴木智津子さん、聖路加看護大学亀井智子さんをお招きして、ご自身の看護専門職としての実践や研究について語っていただきました。また、一般演題口演10題、示説13題、事例検討2題、交流集会2題と、それぞれ興味深いテーマでエントリーしていただき、各会場とも、自由に生き生きとした交流と対話の場を、参加者の皆さんと共有することができたのではないかと思います。シンポジストの方々、演題を出してくださった皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

最後に、本学会は企画委員10名、実行委員26名、ボランティア13名という多くのスタッフによって運営されました。こうした学会を支えてくださるスタッフの皆様、そして参加して下さった皆様には、心より感謝いたします。ありがとうございました。

[▲ ページトップへ](#)

● プログラム

スケジュール

9:00	9:30	9:35	10:25	10:30	12:00	12:10	12:30	13:30	14:45	15:00	17:15
受付	学会理事 長挨拶	会長講演	休憩	口演 (第I, II会場) 示説 (2階ラウンジ)	総会	昼食	総会	交流集会 (第I, II会場) 事例検討 (第IV, V会場)	14:30 休憩	シンポジウム	

▶ プログラムをダウンロード(PDF:48KB)

[▲ ページトップへ](#)

● 座長・司会者のメモから

研究発表(口演):第I会場 第2群(301講義室)

■実践報告2演題および調査研究1演題の発表があった。看護学科の学生と教員のデータを分析した結果に、教育現場からの関心が寄せられた。大規模調査によって学部間の比較ができ、看護学生および教員の傾向が明らかになることで、今後のよりよい看護教育に示唆が得られるものと期待する。また、慢性疾患患者を中心とした家族および専門家との交流活動報告、および市民を対象とした健康関連の相談事業の報告については、具体的で有意義な話し合いがなされた。

交流集会1:第I会場(301講義室)

■CNS看護教育の課題と展望について、大学院教育および継続教育を中心に意見交換を行いました。参加者25名と世話人6名、指定発言者2名の合計33名の参加をいただきました。大学院修了時のゴール設定や臨床看護問題の明確化、スーパービジョン体制など、CNS実践者を交えて幅広く討議されました。「各領域のCNS交流の場として有用であった」、「時間が足りなかった」等の感想をいただき、今後のネットワークづくりにつながる場が持てたのではないかと思います。(野地有子)

事例検討1:第IV会場(303講義室)

■ステロイドの副作用により重篤な症状を来した高齢者の事例検討でした。このまま入院させてはおけない、在宅で介護したいという家族の強い希望に支えられて、訪問看護ステーションが中心となって在宅における長期支援を行い、2年後には歩行器を使用して歩けるほどに回復したケースである。支援経過の発表後、討議ポイントを①自宅と病院での結果の違いはどこからくるのか?②「気力」「生活する力」を取り戻すことへの働きかけとは?に絞りました。入院中は認知症状も発現し、眼にも力が無く、まるで棒のように臥床していた高齢者が、退院後には少しずつ本来の自分を取り戻して行きました。支えた家族、マネジメントした看護師の存在はあったのですが、何よりも「生活している人間」という視点を医療者は忘れてはならないことを再認識させられた事例でした。会場は病院や地域で働く看護職者など様々でしたが、この事例を単に恵まれた事例として終わらせず、学んだ内容を独居高齢者など様々な事例に生かしたいという気持ちで皆一杯でした。

[▲ ページトップへ](#)

● 参加者からのメッセージ

★昨年に引き続き2回目の参加です。昨年、学部生の頃にはあまり意識をしなかった『研究の視点』を今年は意識しながら参加することができ、とてもいい時間でした。”今何が話題なのか”を学ぶ、いい機会となりました。また、発表者の方と質疑応答や情報交換ができたのも、良い学びとなりました。(大学院生)

★私にとって初めての学会参加でしたが、とても興味深く講演などを聞かせていただきました。精神看護の事例検討では、訪問看護師・教員・大学院生など精神看護に関わる様々な立場の人が意見を交わっていて、とても勉強になりました。

★普段は妊娠や出産のの場面に関わっていますが、病気を持って生活していくということをあらためて考え直す機会となりました。最後のシンポジウムでは、とても多くのことを学んだように思います。30代、N

★初めての学会発表でしたが、よい経験になりました。

★全国の大学院にCNSコースが置かれる状況で、CNSの実践を肌で感じる機会や研修、またネットワークが必要になってくると感じました。地域に根付いたケア+卓越した実践が全国に広がる、そんな夢をもてるような学術集会でした。30歳代卒業生S

★限られた発表時間の中でアピールする部分を明確にするか、時間を少々長くしないと無理かもしれませんが、発表内容が充実していないと学会の参加者が減少するでしょう。質的にご検討下さい。午後からのシンポジウム、大変に興味を持って有意義でした。ありがとうございました。

★大学院生の発表に元気をもらいました。型にとらわれずに新しい看護を模索する活動に聖路加の伝統と力を、みました

第11回聖路加看護学会総会の焦点

聖路加看護学会 高木廣文, 鈴木久美(庶務担当)

第11回聖路加看護学会総会は、2006年9月23日土曜日に出席者約35名、委任状提出者247名により開会されました。学術大会長である木下幸代氏を議長として、2006年度の理事会報告、活動報告、会計報告、そして2007年度の事業計画案および予算案について説明、質疑応答がなされました。総会の議題はすべて承認されました。

今回の理事会報告のなかでの新しいトピックスは、「学術大会における短期滞在外国人の発表」に関することです。この短期滞在外国人の発表の制度は、本学会が研究のグローバル化をめざすために、学術大会において短期滞在外国人の英語での発表を認め、海外の研究者の参加を積極的に勧めることを目的とするものであり、理事会で数回検討を重ねて承認を得ました。この詳細の申し合わせに関しては下記の通りですので、皆さんの周囲で研究発表したいという短期滞在外国人の方がいらっしゃいましたら、積極的に勧めていただきますようよろしくお願いいたします。

また、2007年度の事業計画案として、1.第12回学術大会の開催、2.学会誌第11巻の発行、3.ニュースレターの発刊、4.会員相互の学術的交流、5.会員の拡充、6.将来構想検討委員会の立ち上げ、7.日本看護系学会協議会および看護系学会等社会保険連合などへの参加の7つの活動計画および予算案について説明がなされ、承認されました。特に今回提案された将来構想検討委員会は、本学会の名称を含めて今後の方向性などを再度検討するために立ち上げることが理事長より説明されました。

聖路加看護学会が設立して10年が経過しましたが、益々本学会が広く社会に貢献できる学術団体として発展できるよう、会員皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

<学術大会における短期滞在外国人の発表に関する申し合わせ事項>

2005年度の将来構想検討委員会で提案された1つとして「研究のグローバル化をめざす」ために学術大会において英語での発表を認め、また海外の研究者の参加を積極的にすすめる国内国外への研究の発信をはかることについて、2005年度の聖路加看護学会総会によって承認されている。

本申し合わせは、上記の提案および聖路加看護学会会則第一章第3条および第六章第23条に基づき学術大会における短期滞在外国人の発表に関する申し合わせ事項について定めるものである。

1. 発表資格について
 - 1)短期滞在外国人は、本学会に入会しなくても下記の要件を満たせば本学術大会で発表できる資格が得られることとする。
 - 2)発表できる短期滞在外国人は、本学会員の推薦があった短期滞在外国人あるいは、共同発表者に本学会員が含まれている短期滞在外国人に限る。
 - 3)短期滞在外国人とは、外国籍の者で1年程度日本に滞在し、看護に関することを研究している者とする。
 - 4)日本人の共同発表者は、本学会員に限る。
2. 学術大会での発表について
 - 1)学術大会で発表する場合、当該学術大会が定めた方法に従って発表手続きを行う。
 - 2)参加費は、非会員の参加費と同様とする。
 - 3)抄録および発表に使用する言語は、英語とする。
3. 申し合わせの改廃
 - 1)この申し合わせの改廃は、聖路加看護学会理事会が行う。

(付則)

この申し合わせ事項は、平成18年8月1日から施行する。

第12回聖路加看護学会学術大会のご案内(第1報)

日時: 2007年9月22日(土)

会場: 聖路加看護大学

テーマ: 「少子高齢社会を生きる力、支える力」(仮)

大会長: 太田喜久子(慶應義塾大学看護医療学部)

学術集会事務局:

〒252-8530神奈川県藤沢市遠藤4411
慶應義塾大学看護医療学部太田研究室内
FAX 0466-49-6254
e-mail slnr12@sfc.keio.ac.jp

ただいま本学会の趣旨を踏まえたテーマ等、企画を検討中です。

決まりましたらまたお知らせします。

演題締切は例年通り、2007年5月下旬を予定しています。

日程をあらかじめ入れておいていただけたら幸いです。

よろしく願いいたします。

お知らせ

★学会誌編集委員会

今年度の学術交流会の詳細については、次号に内容が掲載されますのでご参照ください。

次年度の学術交流会は7月前半の土曜日で、テーマは国際看護を取り上げる予定です。看護学生・看護職者で海外での活動に関心を持っている方は多く、大学教育の中に組み入れているところもあります。そこで文化や価値観の異なる国々で、看護は国境を越えて何ができるのかを議論したいと考えています。すでに国際活動を手がけている方をシンポジストとしてお招きすることを計画しています。事前申し込み不要、参加費無料ですので、関心のある方はお誘い合わせの上、是非ご参加ください。(担当理事: 中村めぐみ)

★庶務

- 10月より新年度(2007年)となりましたが、現在の会員数は593名です。会員の皆様、周囲の方々にも是非本学会のご入会をお勧め下さい。
- 皆様の勤務先や所属、住所などの変更がありましたら、本部事務局まで速やかにご連絡くださいますようお願い申し上げます。事務局への連絡は、郵便あるいはファクシミリでお願い致します。
- 昨年度から、退会者の承認はその年度末(9月)の理事会としておりましたが、昨年度は移行期であり退会希望の申し出ごとと理事会で検討しておりました。今年度から年度途中での退会希望者は、2007年度末(2007年9月)の理事会での承認となりますのでご注意ください。(担当理事: 高木廣文 鈴木久美)

★会計

2007年度の年会費の納入をお願いいたします。昨年度より年会費8,000円になっております。納入をどうぞよろしくお願いいたします。

また昨年度までの年会費の納入がお済でない方は2005年度までは5,000円×不足年数分、2006年度分は8,000円での納入をお願いいたします。

過去の納入状況についてのお問い合わせは kaoru-osumi@slcn.ac.jp までお願いいたします。(担当理事: 田中美恵子 大隅香)

振込み先: 郵便振替口座 00100-8-670371

加入者名 聖路加看護学会

★学会誌編集委員会

現在、学会誌編集委員会では、2007年6月刊行予定の11巻1号への投稿をお待ちしております。学術大会で発表されたもの、まだ眠っている原稿など多数お寄せ下さい。投稿の期限は2007年1月末日です。なお、今回より投稿時に共著者も含め会員番号を明記していただくようにしましたので、ご協力のほどお願い申し上げます。(担当理事: 木下幸代、及川郁子)

★ニュースレター委員会

2007年度、ニュースレターは年2回(11月、3月)の発行を予定しています。11月発行号では学術大会、3月発行号では学術交流会について、主にご報告いたします。また、今号より、長松康子氏を新しい委員として迎えております。皆さまからのご意見もお待ちしています。(担当理事:川口千鶴)

[▲ ページトップへ](#)

[学会について](#) | [入会案内](#) | [お問合せ](#) | [よくある質問](#) | [学術大会](#) | [ニュースレター](#) | [学会誌](#)

St. Luke's Society for Nursing Research | [サイトマップ](#)